

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	灸実技2
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	鍼灸科	コース名		開設期 後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位	授業形態	実技	
教科書/教材	はりきゅう実技			
<b>担当教員情報</b>				
担当教員	宮本陽平	実務経験の有無・職種	有・鍼灸師	
<b>学習目的</b>				
灸施術の基本技術について実習し、透熱灸施術の精度を向上し、各種無痕灸、温灸施術の基本動作を身に付けることを目的とする。人体各所へ透熱灸施術ができる、熱緩和操作をし、熱くない灸を据えること、また、知熱灸をはじめ、各種の温灸の施術法を学び、安全に施術出来るようになることを目指す。また、実習を通じて、医療従事者としての心構えを学び、医療者としてふさわしい身なり、態度、言葉遣いを理解、実践し、身に付けることを狙いとする。				
<b>到達目標</b>				
灸施術に関する基本的な知識と技術を修得し、灸施術を安全かつ確実に行う能力を身につけるために、無痕灸に関する基本的知識を覚える、知熱灸の艾炷の作り方、燃焼した艾炷の処理の仕方、相手の身体への各種温灸施術を安全に確実にできるようになることが目標である。また、相手に対して失礼なく施術できるように、医療従事者としてふさわしい言葉遣い、態度、姿勢を身につけることを目標とする。				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	実習を通じて、透熱灸の技術レベルを向上させていく。透熱灸を身体各部位で施術できるよう、艾炷の大きさの調節、熱緩和操作を練習する。それとともに、各種温灸の施術方法を身に付ける。知熱灸の艾炷作成、点火、灰の処理を練習する。隔物灸、棒灸、焙烙灸、濡紙灸、温灸器などを用いて、温法としての灸施術を練習し、灸灸技術の向上を図るとともに、医療従事者として相手に対し、施術時にどのような配慮が必要なのかを考えながら実習していく。			
注意点	授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできるが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。課題は、本科の規則に従った形式で提出する。特定の指示が有る場合を除いて、手書きでの作成を原則とする。			
評価方法	種別	割合	備考	
	試験・課題	100%	実技試験	
	小テスト	0%		
	レポート	0%		
	成果発表 (口頭・実技)	0%		
平常点	0%			
<b>授業計画（1回～15回）</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	知熱灸	知熱灸の艾炷を作れる 灰の処理が出来る		
2回	知熱灸 透熱灸	知熱灸施術が出来る 下肢への透熱灸施術が出来る		
3回	透熱灸 知熱灸	知熱灸施術が出来る 下肢への透熱灸施術が出来る		
4回	透熱灸 棒灸	棒灸を用いて施術が出来る 下肢への透熱灸施術が出来る		
5回	生姜灸	生姜灸が出来る		
6回	塩灸 透熱灸	塩灸が出来る 下肢への透熱灸施術が出来る		
7回	MT温灸 温筒灸	温灸器、温筒灸を用いて施術が出来る		
8回	おわん灸 透熱灸	おわんを用いて施術が出来る 下肢への透熱灸施術が出来る		
9回	水灸 透熱灸	濡紙灸施術が出来る 下肢への透熱灸施術が出来る		
10回	透熱灸 試験対策	一連の流れで知熱灸、透熱灸施術が出来る		
11回	透熱灸 試験対策	一連の流れで知熱灸、透熱灸施術が出来る		
12回	試験対策	一連の流れで知熱灸、透熱灸施術が出来る		
13回	透熱灸	上背部への透熱灸施術が出来る		
14回	透熱灸	背部への透熱灸施術が出来る		
15回	透熱灸	頭部への透熱灸施術が出来る		